

第 85 回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成 26 年 1 月～ 3 月期

平成 26 年 1 月～ 3 月期は、消費税増税前の駆け込み需要に伴う経済活動の活発化により、企業マインドは大幅に改善をみた。日銀短観の 1 月～ 3 月期調査においては、大企業では製造業・非製造業ともに 5 四半期連続で改善するなど、景況感改善が続いていることが確認された。

トラック運送業界においては、特に 3 月に入ってから物流量が急激に増加し、ドライバー不足や車両不足により需要に対応できず、スポット輸送では運賃が大幅に上昇する傾向となった。こうした事業環境において、トラック運送業界の景況感の判断指数は +14 となり、前回 (+12) から僅かに改善し、プラス水準を維持することになった。事業規模別にみると、全ての事業規模においてプラス水準となり、中規模事業者及び小規模事業者においては、前回調査からの改善が確認されている。

今後 4 月～ 6 月期の見通しは悪化に転じた事業者が多く、▲47 と大幅悪化となっている。この原因として、消費税増税後における物流量の減少に対する警戒感が作用していると考えられるが、各事業者へのヒアリングによると、落ち込みは「想定内の範囲」であり、相応の対応策を講じていることも推察できる。なお、トラック運送業界では 4 月以降は需要の減退だけでなく、高速道路料金制度の見直しや燃料価格の高止まりに伴うコスト増、さらに深刻なドライバー不足といった不安材料も多く、景況感の今後の見通しの判断を押し下げている。

平成 26 年 5 月 15 日

公益社団法人 全日本トラック協会

1. 今回（平成26年1月～3月期）の状況

① 概況

平成26年1月～3月期におけるトラック運送業界の景況感は、「好転」とした事業者は39%（前回34%）、「悪化」とした事業者は25%（前回22%）で、判断指標は+14となり、前回（+12）から僅かに改善となり、プラス水準を維持した。

② 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が16%、「増加」とする事業者が43%で、判断指標は+33となり、前回（+2）から31ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が14%、「増加」とする事業者が42%で、判断指標は+29となり、前回（0）よりも29ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が19%、「増加」とする事業者が38%で、判断指標は+19となり、前回（▲2）から21ポイント改善した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が15%、「増加」とする事業者が57%で、判断指標は+51となり、前回（+39）から12ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が16%、「増加」とする事業者が54%で、判断指標は+43となり、前回（+30）から13ポイント改善となった。営業利益は「減少」とする事業者が15%、「増加」とする事業者が49%で、判断指標は+39となり、前回（+6）から33ポイント改善した。

③ 一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が17%、「増加」とする事業者が49%で、判断指標は+35となり、前回（+29）から6ポイント改善となった。営業収入は「減少」とする事業者が23%、「増加」とする事業者が46%で、判断指標は+24となり、前回（+19）から5ポイント改善となった。営業利益は「減少」とする事業者が30%、「増加」とする事業者が33%で、判断指標は0となり、前回（▲9）から9ポイント改善となった。

④ 運賃水準

運賃水準は、宅配貨物は+19（前回+11）と8ポイント改善、宅配以外の特積貨物は、+30（前回+23）から7ポイント改善、一般貨物は+7（前回▲2）と9ポイント改善となった。

⑤ 実働率等

実働率は+27（前回+21）と6ポイント改善、実車率は+23（前回+20）となり、僅かに改善となった。

雇用状況（人手の過不足）は+70（前回+66）から僅かに上昇となり、依然として不足感が強い。採用状況は+4（前回+1）で指標は3ポイント増加し、所定外労働時間は+27（前回+17）と10ポイント増加している。

保有車両台数は+2（前回+1）で指標はほぼ横ばい、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は+9（前回+12）で僅かに減少となった。

⑥ 地域別および規模別、取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、前回まで相対的に指標の水準が良かった北陸信越が水準を下げた。一方で、四国や前回まで水準の低かった近畿、九州の水準が上昇している。

事業者の規模別では、全ての事業規模においてプラス水準となった。特に中規模事業者と小規模事業者は、前回より改善している。

主な取扱い品目別について、機械関連貨物は前回よりも改善している。

2. 今後（平成26年4月～6月期）の見通し

① 概況

平成26年4月～6月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は▲47で、今回から61ポイント下げる見込み。

② 特別積合せ貨物

宅配貨物は、輸送数量及び営業収入、営業利益いずれも大幅に減少の見込みである。

宅配以外の特積貨物においても、輸送数量及び営業収入、営業利益いずれも大幅に減少の見込みである。

③ 一般貨物

一般貨物は、輸送数量及び営業収入、営業利益いずれも大幅に減少の見込みである。

④ 運賃水準

宅配貨物と宅配以外の特積貨物、一般貨物のいずれも悪化の見込みであるが、宅配以外の特積貨物はプラス水準を維持している。

⑤ 実働率等

実働率、実車率は大幅減少の見込みである。

雇用状況（人手の過不足）はやや指標の水準を上げ、引き続き不足感がある見込みである。採用状況は減少、所定外労働時間は減少する見込みである。

保有車両台数は横ばい、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は減少の見込み。経常損益は大幅に悪化の見込みである。

⑥ 地域別および規模別、取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、地域にかかわらず指標を下げる見込みであるが、特に北陸信越、四国、九州で指標を下げる見込みである。

事業者の規模別では、いずれの規模の事業者においても大幅に悪化する見込みである。

主な取扱い品目別では、いずれの品目においても大幅に悪化する見込みである。

3. 特積貨物の概況

項目		概況						
		0%	20%	40%	60%	80%	100%	
宅	輸送数量	前回	0	32	43	21	4	(2)
		今回	10	33	40	14	2	(33)
		見通	25	48	40	5		(-40)
		<ul style="list-style-type: none"> ・前回より31ポイント改善した。 ・規模別ではいずれの規模も前回から改善した。 ・今後は水準を下げる見込み。 						
配	営業収入 (売上高)	前回	0	33	39	24	4	(0)
		今回	2	40	43	12	2	(29)
		見通	02	43	50	5		(-57)
		<ul style="list-style-type: none"> ・前回より29ポイント改善した。 ・規模別では中規模事業者と小規模事業者は前回から改善しており、大規模事業者はやや悪化している。 ・今後は水準を下げる見込み。 						
貨	営業利益	前回	0	28	46	22	4	(-2)
		今回	2	36	43	17	2	(19)
		見通	0	48	50	2		(-55)
		<ul style="list-style-type: none"> ・前回より21ポイント改善した。 ・規模別ではいずれの規模も前回から改善した。 ・今後は水準を下げる見込み。 						
物	運賃・料金の水準	前回	0	22	70	7	2	(11)
		今回	0	26	67	7	0	(19)
		見通	0	12	74	14	0	(-2)
		<ul style="list-style-type: none"> ・前回より8ポイント改善した。 ・規模別では中規模事業者と小規模事業者は前回から改善しており、大規模事業者は僅かに悪化している。 ・今後は水準を下げる見込み。 						

【調査の概要】

平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。
第85回調査は、平成26年4月7日に、モニター
に対して調査開始。平成26年5月8日回収分まで
を集計。

	特積	一般	回答事業者 全体
回収数	74	568	592

※一部回答事業者の重複あり

項 目		概 況						
		0%	20%	40%	60%	80%	100%	
宅配	輸送数量	前回	4	42	44	8	1	(39)
		今回	12	45	29	12	3	(51)
		見通	6	39	46	9		(-58)
		<ul style="list-style-type: none"> ・前回より12ポイント改善した。 ・規模別ではいずれの規模も前回から改善している。 ・今後は水準を下げる見込み。 						
以外	営業収入 (売上高)	前回	3	42	39	13	3	(30)
		今回	9	45	30	13	3	(43)
		見通	6	35	52	7		(-61)
		<ul style="list-style-type: none"> ・前回より13ポイント改善した。 ・規模別ではいずれの規模も前回から改善し、特に中規模事業者の改善幅が大きくなっている。 ・今後は水準を下げる見込み。 						
の特	営業利益	前回	1	31	44	20	4	(6)
		今回	7	42	35	14	1	(39)
		見通	7	38	48	7		(-55)
		<ul style="list-style-type: none"> ・前回より33ポイント改善した。 ・規模別ではいずれの規模も前回から改善し、特に中規模事業者の改善幅が大きくなっている。 ・今後は水準を下げる見込み。 						
積貨	運賃・料金の水準	前回	0	31	62	6	1	(23)
		今回	0	33	64	0		(30)
		見通	0	36	52	9	3	(22)
		<ul style="list-style-type: none"> ・前回より7ポイント改善した。 ・規模別ではいずれの規模も前回から改善し、特に小規模事業者の改善幅が大きくなっている。 ・今後は水準をやや下げる見込み。 						

凡例

	大幅に増加・上昇・好転・人手不足	+2点	(注1) 各グラフの上段は前回の状況、中段は今回の状況、下段は今後の見通しを示す。 (注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。
	やや増加・上昇・好転・人手不足	+1点	
	横ばい	0点	
	やや減少・低下・悪化・人手過剰	-1点	
	大幅に減少・低下・悪化・人手過剰	-2点	

(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、増加・好転+1～+2、横ばい0、減少・悪化-1～-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

$$A \text{ (設問Aの回答者数)} = a_1 + a_2 + a_3 + a_4 + a_5 \text{ (設問Aの選択肢1～5の回答数の和)}$$

$$\text{指標} = \{ (+2 \times a_1) + (+1 \times a_2) + (0 \times a_3) + (-1 \times a_4) + (-2 \times a_5) \} \div A \times 100$$

4. 一般貨物の概況

項目	概況						
	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
輸送数量 (全体)	前回	4	38	43	13	2	(29)
	今回	7	42	34	14	3	(35)
	見通	1	16	44	34	6	(-28)
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回より6ポイント改善した。 ・改善している地域が多く、近畿・九州の改善幅が大きい。品目別では消費・機械関連が改善している。 ・今後は水準を下げる見込み。 						
営業収入 (売上高)	前回	3	38	37	20	2	(19)
	今回	5	41	31	18	5	(24)
	見通	1	17	39	36	7	(-33)
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回より5ポイント改善した。 ・改善している地域が多く、近畿・九州の改善幅が大きい。品目別では消費・機械関連、その他貨物が改善。 ・今後は水準を下げる見込み。 						
営業利益	前回	2	23	42	28	5	(-9)
	今回	3	30	36	23	7	(0)
	見通	1	11	35	42	12	(-54)
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回より9ポイント改善した。 ・改善している地域が多く、近畿・四国の改善幅が大きい。品目別ではいずれの品目も改善している。 ・今後は水準を下げる見込み。 						
運賃・料金の水準	前回	0	12	76	11	2	(-2)
	今回	1	17	72	9	1	(7)
	見通	0	16	69	13	2	(0)
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回より9ポイント改善した。 ・改善している地域が多く、関東・北陸信越の改善幅が大きい。品目別では消費・機械関連、その他貨物が改善。 ・今後は水準をやや下げる見込み。 						

5. 共通の概況

項目	概況					
	0%	20%	40%	60%	80%	100%
実働率	前回	2	33	51	12	2 (21)
	今回	5	36	45	12	3 (27)
	見通	1	14	49	32	5 (-27)
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回より6ポイント改善した。 ・改善している地域が多く、近畿は改善幅が大きい。品目別では消費・機械関連、その他貨物が前回から改善。 ・今後は水準を下げる見込み。 					
実車率	前回	2	29	56	11	1 (20)
	今回	4	32	51	11	2 (23)
	見通	1	14	52	28	5 (-23)
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回より3ポイント改善した。 ・改善している地域が多く、近畿は改善幅が大きい。品目別では消費・機械関連、その他貨物が前回から改善。 ・今後は水準を下げる見込み。 					
雇用状況 (人手の過不足)	前回	15	38	45	0	(66)
	今回	17	38	43	0	(70)
	見通	24	36	36	1	(79)
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回より4ポイント上昇した(不足感が高くなった)。 ・上昇している地域が多く、近畿、九州は不足感が高い。品目別では、いずれも上昇している。 ・今後はやや水準を上げる見込み。 					
採用状況	前回	1	17	65	14	3 (1)
	今回	1	19	65	13	2 (4)
	見通	1	14	64	17	4 (-9)
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回より3ポイント増加した。 ・規模別では小規模事業者が改善し、採用が増加している。品目別では、特に機械関連が増加幅が大きい。 ・今後は水準を下げる見込み。 					
所定外労働時間	前回	2	25	62	10	1 (17)
	今回	4	30	55	9	1 (27)
	見通	1	14	61	21	3 (-12)
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回より10ポイント増加した。 ・規模別では中規模・大規模事業者が増加した。品目別では、建設関連を除きいずれも増加している。 ・今後は水準を下げる見込み。 					

項目	概況						
	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
保有車両台数	前回	0	14	74	11	1	(1)
	今回	0	15	72	12	1	(2)
	見通	0	13	75	11	1	(2)
<ul style="list-style-type: none"> ・前回より1ポイント増加した。 ・地域別では地域による顕著な変化は少ない。規模別では、中規模事業者が増加している。 ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。 							
貨物の再委託 (下請運送会社への 委託割合)	前回	3	21	65	10	2	(12)
	今回	2	22	62	10	4	(9)
	見通	1	12	63	20	5	(-17)
<ul style="list-style-type: none"> ・前回より3ポイント減少した。 ・地域別では特に北陸信越・九州が増加している。規模別では中規模事業者が前回より増加している。 ・今後は水準を下げる見込み。 							
経常損益	前回	2	26	40	28	4	(-7)
	今回	4	30	35	26	7	(-2)
	見通	1	12	36	41	11	(-49)
<ul style="list-style-type: none"> ・前回より5ポイント改善した。 ・地域別では四国が前回から改善幅が大きく、規模別では、大規模事業者の改善幅が大きい。 ・今後は水準を下げる見込み。 							
業界の景況感	前回	2	32	44	20	2	(12)
	今回	4	35	36	21	4	(14)
	見通	0	13	36	41	10	(-47)
<ul style="list-style-type: none"> ・前回より2ポイント改善した。 ・地域別では、特に九州、近畿が前回からの改善幅が大きい。品目別では、特に機械関連の改善幅が大きい。 ・今後は水準を下げる見込み。 							

6. 事業者特性格別の特徴

事業者特性	特徴																																																												
①地域（注4）	<p>◆「業界の景況感」の業況判断指標の地方ブロック別順位◆</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">H25年 10～12月期前回</th> <th colspan="2">H26年 1～3月期今回</th> <th colspan="2">H26年 4～6月期見通</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td>北陸信越</td> <td>四国</td> <td>北海道</td> <td>北海道</td> <td>北海道</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>中国</td> <td>北陸信越</td> <td>関東</td> <td>関東</td> <td>関東</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>四国</td> <td>近畿</td> <td>近畿</td> <td>近畿</td> <td>近畿</td> </tr> <tr> <td>4位</td> <td>中部</td> <td>九州</td> <td>東北</td> <td>東北</td> <td>東北</td> </tr> <tr> <td>5位</td> <td>北海道</td> <td>中部</td> <td>中部</td> <td>中部</td> <td>中部</td> </tr> <tr> <td>6位</td> <td>東北</td> <td>東部</td> <td>東部</td> <td>東部</td> <td>東部</td> </tr> <tr> <td>7位</td> <td>近畿</td> <td>東部</td> <td>東部</td> <td>東部</td> <td>東部</td> </tr> <tr> <td>8位</td> <td>関東</td> <td>東部</td> <td>東部</td> <td>東部</td> <td>東部</td> </tr> <tr> <td>9位</td> <td>九州</td> <td>北海道</td> <td>北海道</td> <td>北海道</td> <td>北海道</td> </tr> </tbody> </table>	H25年 10～12月期前回		H26年 1～3月期今回		H26年 4～6月期見通		1位	北陸信越	四国	北海道	北海道	北海道	2位	中国	北陸信越	関東	関東	関東	3位	四国	近畿	近畿	近畿	近畿	4位	中部	九州	東北	東北	東北	5位	北海道	中部	中部	中部	中部	6位	東北	東部	東部	東部	東部	7位	近畿	東部	東部	東部	東部	8位	関東	東部	東部	東部	東部	9位	九州	北海道	北海道	北海道	北海道
H25年 10～12月期前回		H26年 1～3月期今回		H26年 4～6月期見通																																																									
1位	北陸信越	四国	北海道	北海道	北海道																																																								
2位	中国	北陸信越	関東	関東	関東																																																								
3位	四国	近畿	近畿	近畿	近畿																																																								
4位	中部	九州	東北	東北	東北																																																								
5位	北海道	中部	中部	中部	中部																																																								
6位	東北	東部	東部	東部	東部																																																								
7位	近畿	東部	東部	東部	東部																																																								
8位	関東	東部	東部	東部	東部																																																								
9位	九州	北海道	北海道	北海道	北海道																																																								
②規模（注5）	<p>・大規模事業者の景況感は前回と比べ僅かに悪化し、中規模事業者の景況感はやや改善、小規模事業者は僅かに改善した。 ・今後はいずれの規模の事業者も悪化する見込み。</p> <p>事業規模別 業界の景況感業況判断指標の推移(H24.4～6期より)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業規模</th> <th>H24.4～6期</th> <th>H25.1～3期</th> <th>H26.1～3期</th> <th>H26.4～6期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大規模</td> <td>40.6</td> <td>12.4</td> <td>36.8</td> <td>-49.4</td> </tr> <tr> <td>中規模</td> <td>12.4</td> <td>2.1</td> <td>17.5</td> <td>-46.8</td> </tr> <tr> <td>小規模</td> <td>2.1</td> <td>-0.4</td> <td>2.1</td> <td>-46.7</td> </tr> </tbody> </table>	事業規模	H24.4～6期	H25.1～3期	H26.1～3期	H26.4～6期	大規模	40.6	12.4	36.8	-49.4	中規模	12.4	2.1	17.5	-46.8	小規模	2.1	-0.4	2.1	-46.7																																								
事業規模	H24.4～6期	H25.1～3期	H26.1～3期	H26.4～6期																																																									
大規模	40.6	12.4	36.8	-49.4																																																									
中規模	12.4	2.1	17.5	-46.8																																																									
小規模	2.1	-0.4	2.1	-46.7																																																									
③品目（注6）	<p>・消費関連貨物を扱う事業者では、前回と比べ景況感は横ばいであった。一般貨物の輸送量としてみると、食料工業品、日用品の水準が相対的に高い。今後は水準を下げる見込み。 ・建設関連貨物を扱う事業者では、前回と比べ景況感はほぼ同様であった。一般貨物の輸送数量としてみると、金属製品の水準が相対的に高い。今後は水準を下げる見込み。 ・機械関連貨物を扱う事業者では、前回と比べ景況感水準を上げた。一般貨物の輸送数量としてみると、輸送機械、その他機械の水準が相対的に高い。今後は水準を下げる見込み。 ・その他貨物を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を僅かに上げた。一般貨物の輸送数量としてみると、金属製品、鉱産品が水準を上げた。今後は水準を下げる見込み。</p> <p>業界の景況感(品目別、前回からの指標の増減)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消費関連貨物</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>建設関連貨物</td> <td>-1</td> </tr> <tr> <td>機械関連貨物</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>その他貨物</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	品目	増減	消費関連貨物	0	建設関連貨物	-1	機械関連貨物	18	その他貨物	4																																																		
品目	増減																																																												
消費関連貨物	0																																																												
建設関連貨物	-1																																																												
機械関連貨物	18																																																												
その他貨物	4																																																												

(注4) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。

(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上

中規模事業者：21両以上100両以下

小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

7. 景況感一覽表

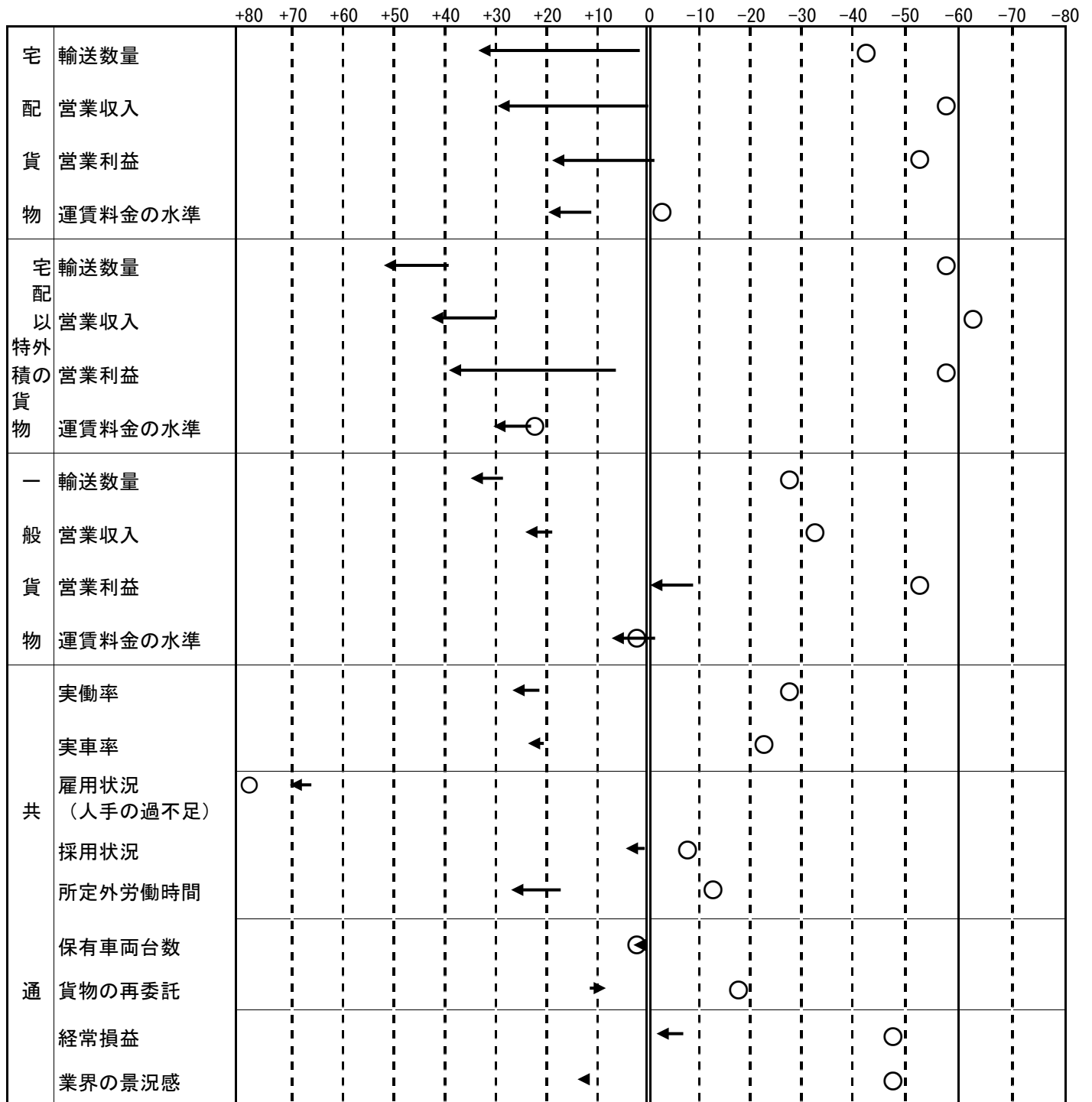
		特積貨物						一般貨物			雇用関連			総合計		
		宅配貨物			宅配以外の特積貨物											
全体		→	↗	↘	↗	↗	↘	→	→	↘	↗	↗	→	→	↗	↘
地域	北海道	↗	→	→	↗	↗	↘	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	東北	→	↗	↘	↗	↗	→	→	→	↘	↗	↗	→	↗	↗	→
	北陸信越	↘	↗	↘	↗	↗	↘	→	↗	↘	↗	↗	↗	→	↗	↘
	関東	→	↗	↘	↘	→	↘	→	→	↘	↗	↗	↗	→	↗	↘
	中部	→	↗	↘	↗	↗	↘	→	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↘
	近畿	↗	↗	↘	↗	→	↘	→	↗	↘	↗	↗	↗	→	↗	↘
	中国	→	↗	↘	↗	↗	↘	↗	→	↘	↗	↗	→	→	↗	↘
	四国	→	↘	↓	↗	↗	↘	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	→	↘
	九州	↘	→	↓	→	↗	↓	→	→	→	→	↗	→	→	→	↘
事業者規模	小規模事業者	↘	↗	→	→	→	↘	→	→	↘	→	→	→	→	→	↘
	中規模事業者	→	↗	↘	→	↗	↘	→	↗	↘	↗	↗	↗	→	↗	↘
	大規模事業者	→	→	↘	↗	↗	↘	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↘
取り扱い品目	消費関連貨物	-	-	-	↗	↗	↘	→	→	↘	↗	↗	↗	→	↗	↘
	建設関連貨物	-	-	-	→	↗	→	→	→	↘	↗	↗	→	→	↗	→
	機械関連貨物	-	-	-	↗	⏏	↓	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↘
	その他貨物	-	-	-	→	↗	→	→	→	↘	↗	↗	↗	→	→	→

(注7) 各項目は、関連する判断指標（前年同期に対する水準）から平均値を算出。
 貨物別については、輸送数量、営業収入、営業利益、運賃水準の平均値で判断。
 宅配貨物は品目別評価をしていない。

凡例 ・各欄は、左：前回（10-12月） 中央：今回（1-3月） 右：見通（4-6月）
 ・矢印と判断指数の対応

判断指数	… -100 … -60 … -20 … +20 … +60 … +100 …
矢印	⏏ ↓ ↘ → ↗ ↑ ⏏

8. 業況判断指標の前回調査（平成25年10月～12月期）からの変化

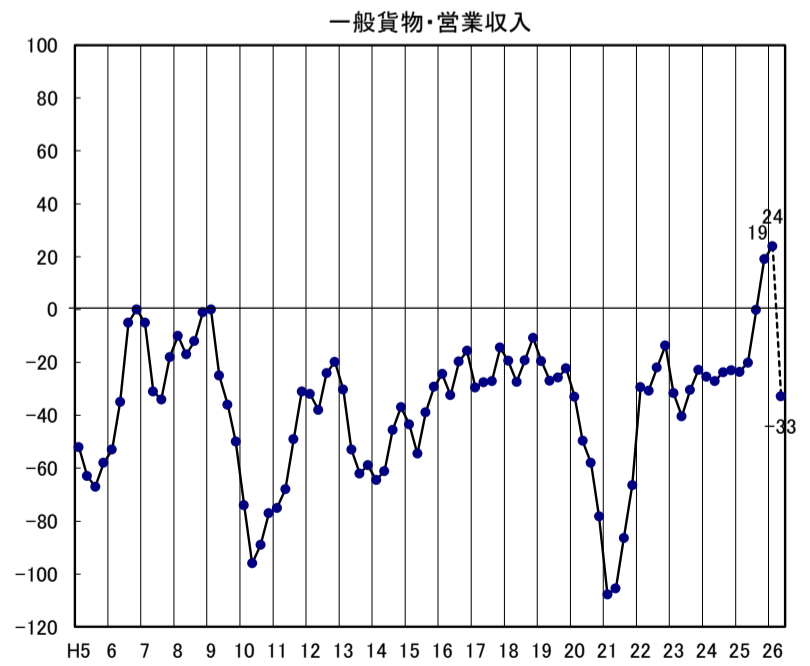
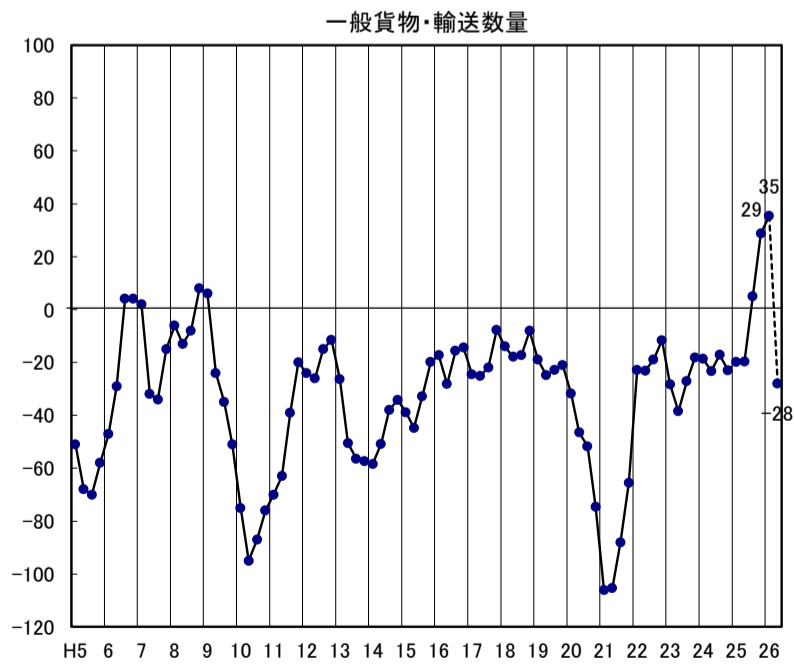
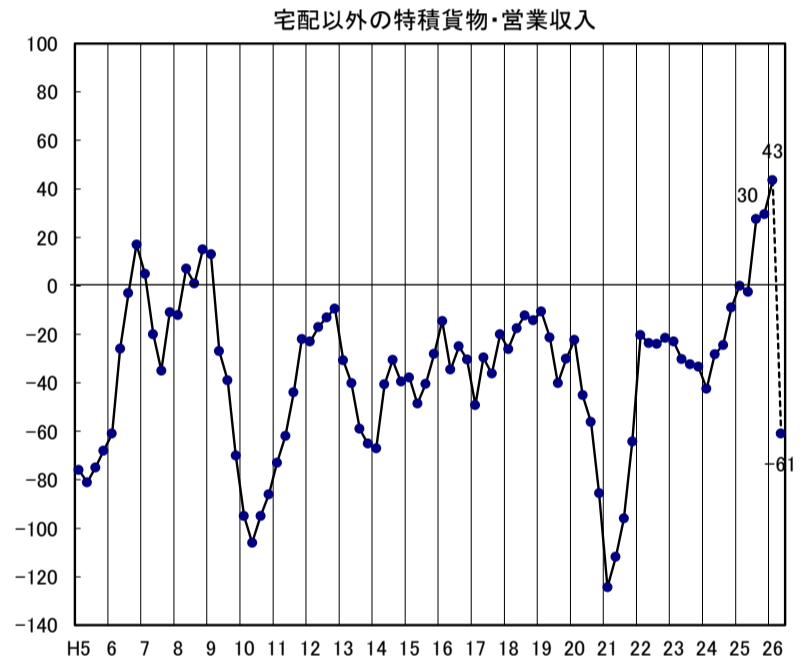
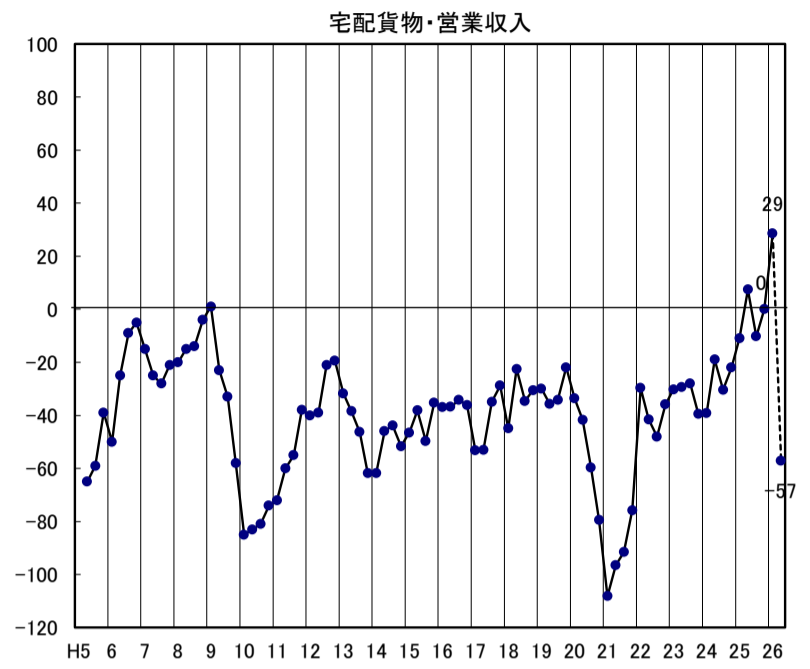
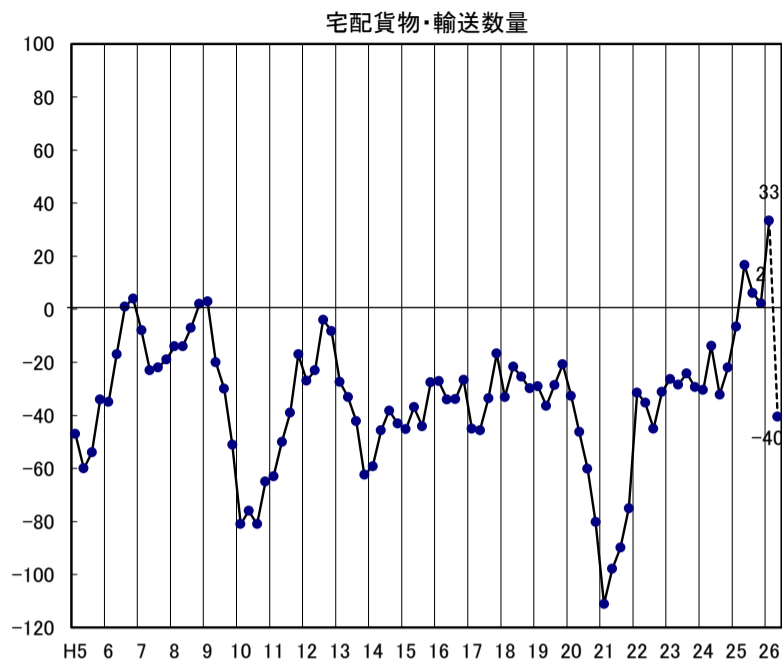


凡 例

矢元：10-12月期の実績
 矢先：1-3月期の実績
 白丸：4-6月期の見通

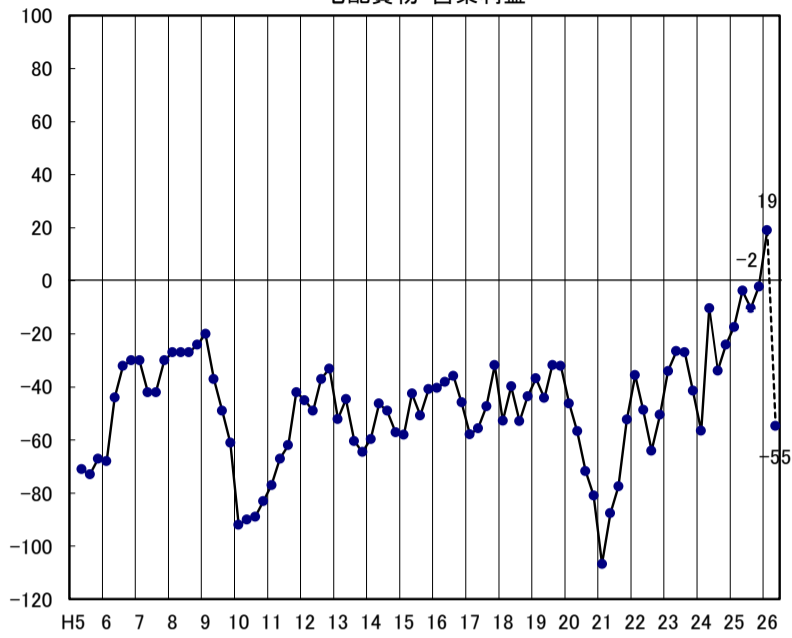
9. 業況判断指標の推移

平成5年第1四半期～平成26年第1四半期実績、平成26年第2四半期見通し

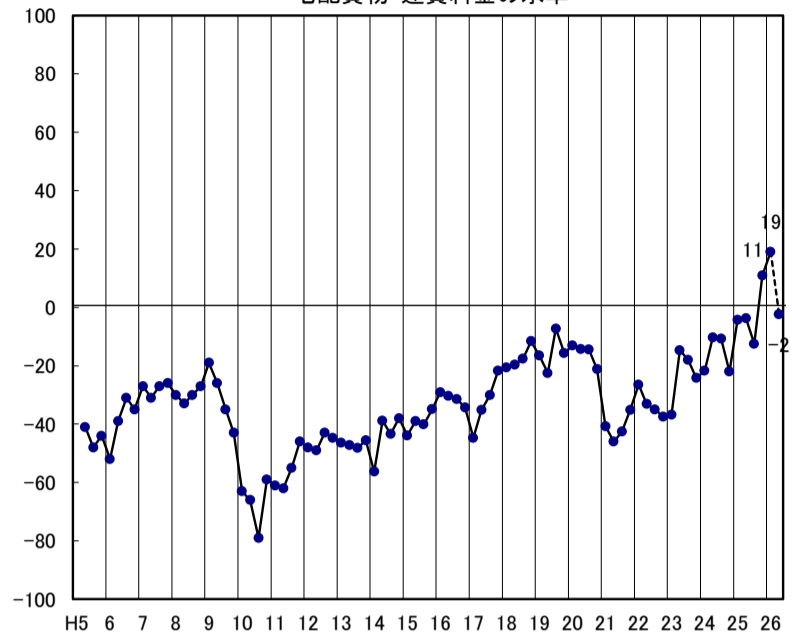


平成5年第1四半期～平成26年第1四半期実績、平成26年第2四半期見通し

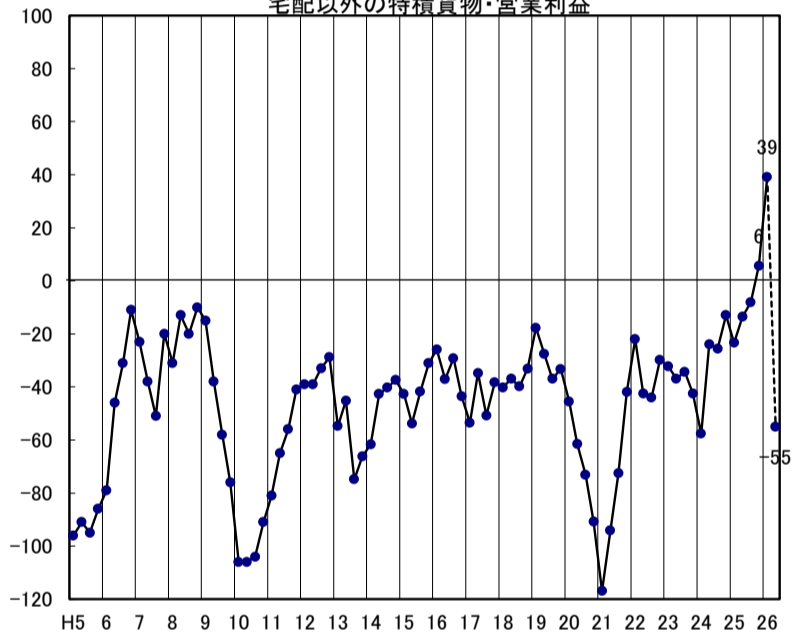
宅配貨物・営業利益



宅配貨物・運賃料金の水準



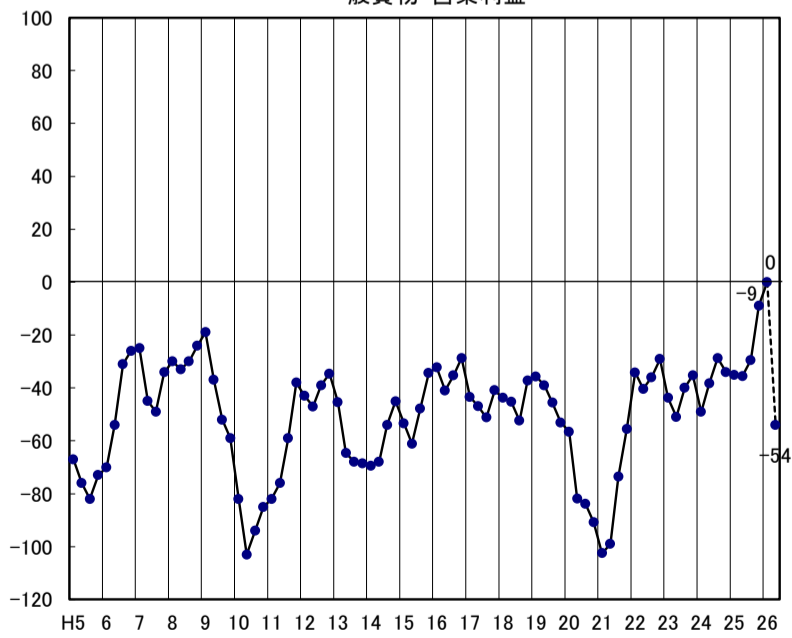
宅配以外の特積貨物・営業利益



宅配以外の特積貨物・運賃料金の水準



一般貨物・営業利益

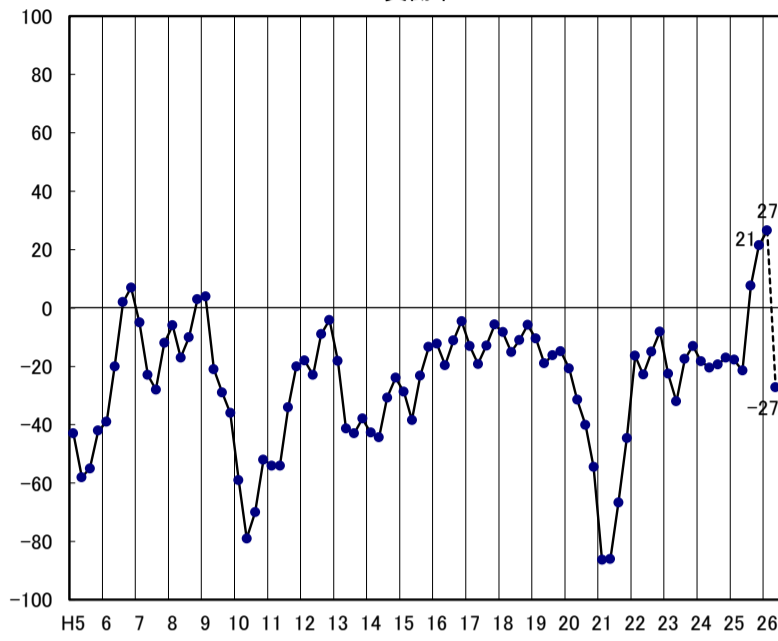


一般貨物・運賃料金の水準

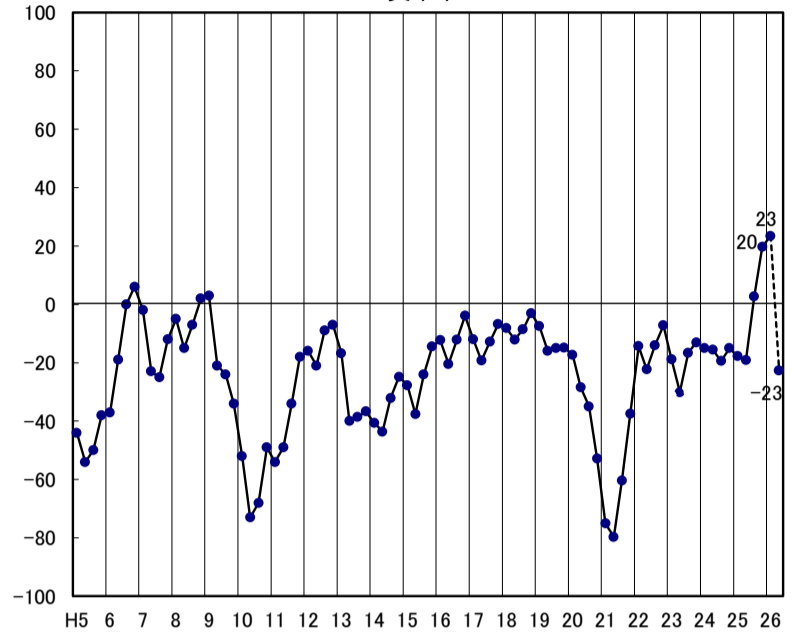


平成5年第1四半期～平成26年第1四半期実績、平成26年第2四半期見通し

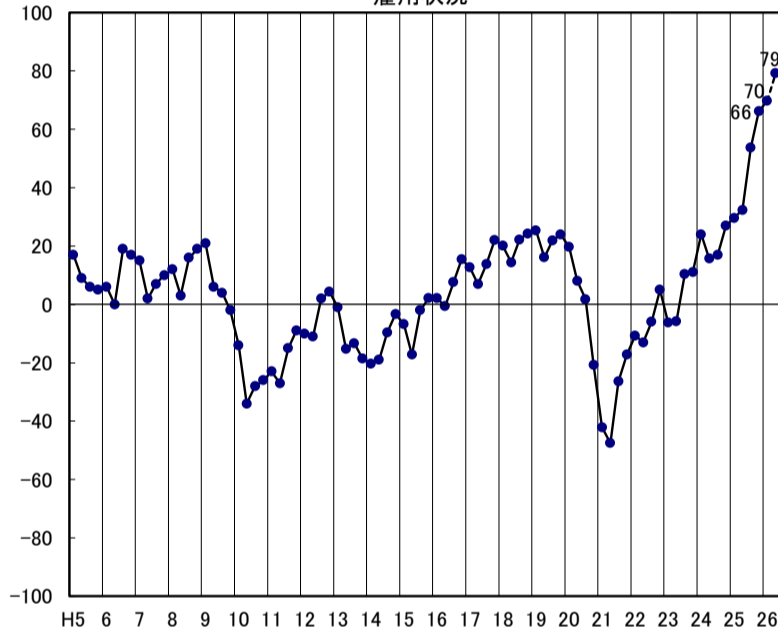
実働率



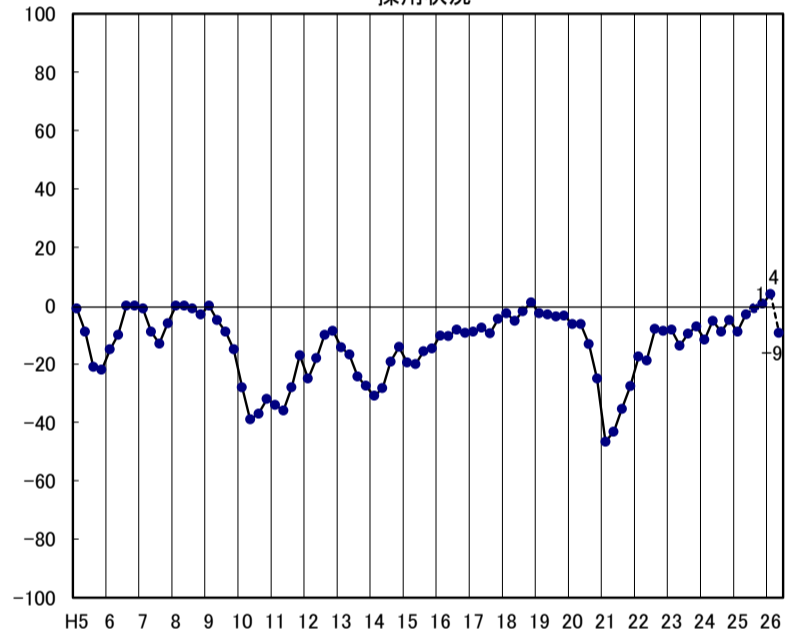
実車率



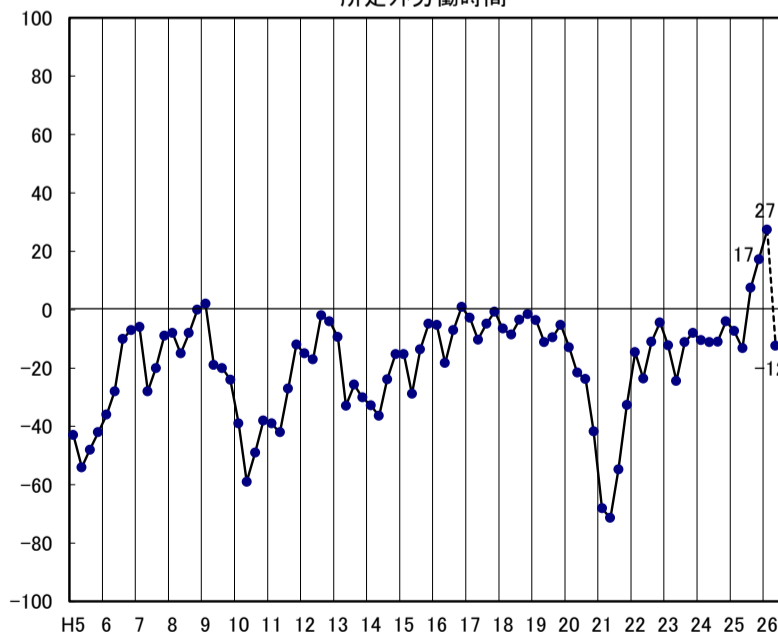
雇用状況



採用状況

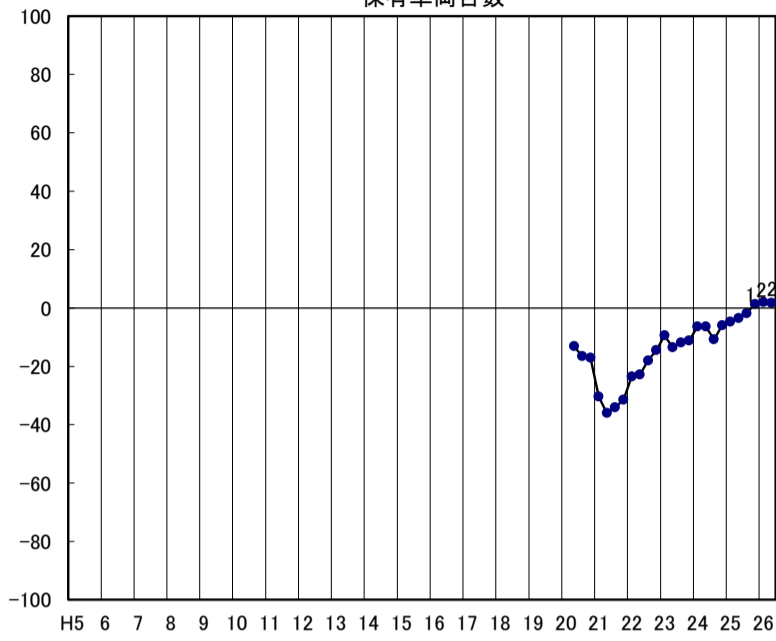


所定外労働時間

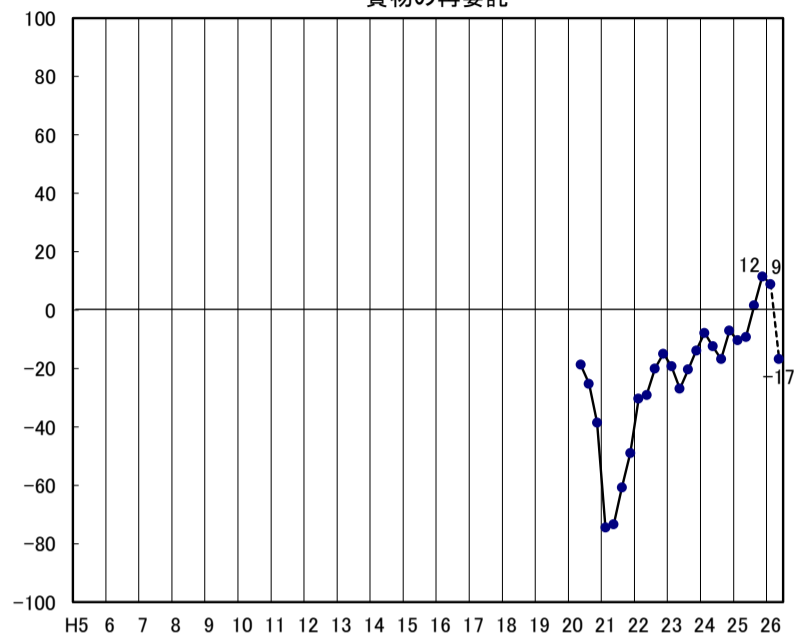


平成5年第1四半期～平成26年第1四半期実績、平成26年第2四半期見通し

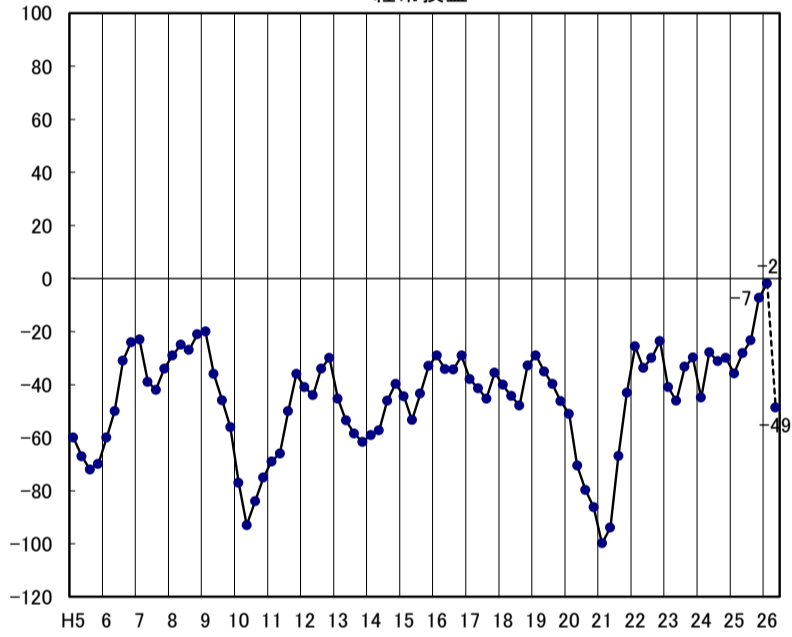
保有車両台数



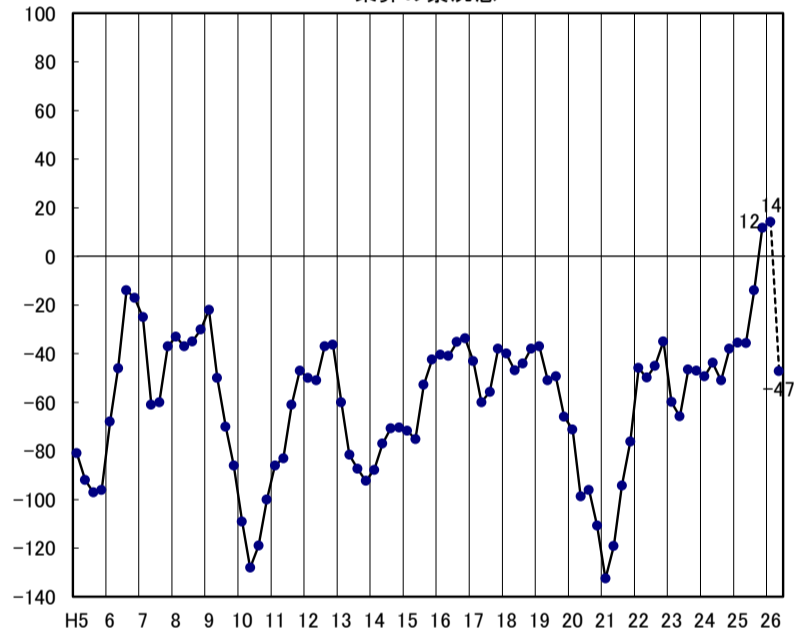
貨物の再委託



経常損益

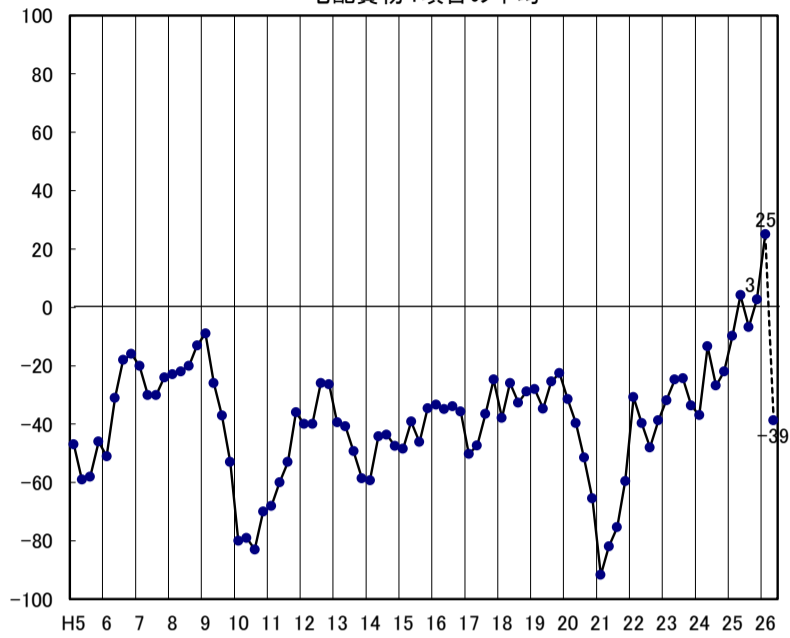


業界の景況感

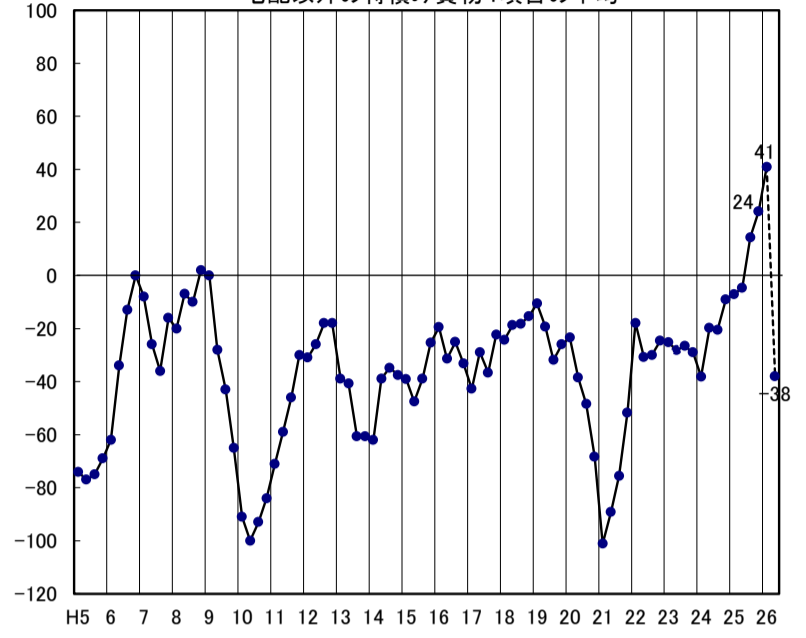


平成5年第1四半期～平成26年第1四半期実績、平成26年第2四半期見通し

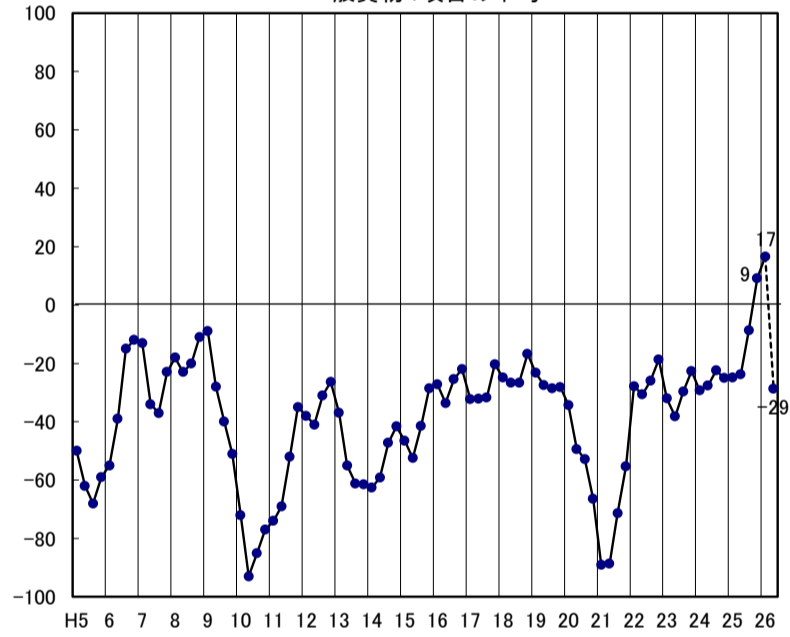
宅配貨物4項目の平均



宅配以外の特積み貨物4項目の平均



一般貨物4項目の平均



全項目の平均

